

平成23年度研究部会合同会議
平成23年度研究報告

「都市空間におけるユニバーサルな防災情報の提供」

平成24年6月26日

財団法人都市づくりパブリックデザインセンター
景観・ITS・ユニバーサルデザイン研究部会



景観・ITS・ユニバーサルデザイン研究部会
平成23年度活動方針

東日本大震災により、様々な潜在課題が顕在化

少子高齢コミュニティ問題

災害抑止の限界⇒「減災」へ

コンパクトシティ

スマートシティ

災害に強いまちづくり

景観・ITS UD研究部会として、
これらの新しいまちづくりに向け研究・提言する

自主研究テーマ

健康を楽しむ路

自主研究テーマ

都市空間における
ユニバーサルな
防災情報の提供

景観・ITS・ユニバーサルデザイン研究部会 平成23年度自主研究テーマ

自主研究テーマ

「都市空間におけるユニバーサルな防災情報の提供」

1)活動の狙い

津波からの避難を迅速に行える都市空間でのあり方について、避難のために必要な情報のユニバーサルな提供を核として提案する

2)活動内容

- ・津波に関する関連施策の整理と必要性の確認
- ・津波防災において、ハザートの大きさに関わらず有効な「ソフト対策」としての情報提供媒体を整理
- ・伝達すべき情報に応じた情報提供媒体の最適な設置場所、設置方法の検討

津波避難の重要性と避難情報提供の必要性 に関する施策

1)津波対策の推進に関する法律(H23)

⇒津波避難による減災と、国・公共団体による対策の必要性

- 「国民が迅速かつ適切な行動をとることにより、人命に対する被害を相当程度軽減できる」
- 「国、及び公共団体は、津波に対する予報又は警報及び避難の勧告または指示が適切に伝達され、できる限り多くの者が、迅速かつ円滑に避難することができるようにするために必要な体制の整備その他、必要な措置を講ずるよう努めなければならない」

2)津波防災地域づくりの推進に関する基本的な指針(H23・2・27)

⇒業務・観光での来街者を含め、津波に被災する可能性のある
全ての人に、津波被害のリスクを伝えることの必要性

- 「過去の歴史や経験を生かしながら、津波に対する住民その他の者(滞在者を含む)の意識を常に高く保つよう努めること」が極めて重要である(2. 津波防災地域づくりの考え方)」

3)防災基本計画(H20中央防災会議決定)

⇒避難方法の啓発、避難場所・避難路のわかりやすい案内の必要性

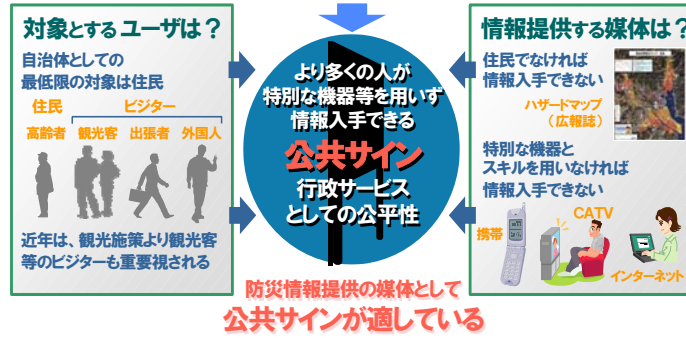
- 「津波については個人の避難行動が重要であることから、国及び地方公共団体は、津波の危険や津波警報・避難指示等の意味合い、避難方法等を住民及び船舶等に広く啓発するもの」
- 「地方公共団体は避難場所、避難路の指定とともに統一的な図記号等を利用したわかりやすい案内板等を設置」

防災(減災)情報提供のソフト対策

- 1)ユニバーサルな防災(減災)情報提供の媒体として、公共団体が屋外に設置する「公共サイン」が最も望ましい。
- 2)津波被災リスクを明示し、対応方法をわかりやすく提供することが、人を迎え入れるまちのホスピタリティである。

最も大切な「いのち」を守る手段は？
ハザードからの避難

ソフト対策として **避難のための情報提供** が最も重要



避難のための3つの情報とユニバーサルな提供

1)津波被害のリスクを知る

- 津波に対する最大の防災対策は忘れないようにすること。
- ビジターが津波のリスクを知ることによって緊急時の適切な避難行動に繋がる。

2)避難を知る

- どの様に避難するか ⇒ 津波よりも高い所へ上がる
- 避難場所の位置、津波発生時でも安全な高さ、避難すべき方向を知る。

3)津波の発生を知る

- 津波の発生を知り、避難すべき時を認識する。



津波被害のリスクを知るサイン

1) 津波学習防災サイン

- 当該地域の津波に関する知識を提供し、その街の津波の危険性を周知する。
- 津波の起こる仕組み、過去の津波波高、津波発生時の対応方法など。
- 公共施設・鉄道駅・観光地などに配置。



2) 津波注意喚起サイン

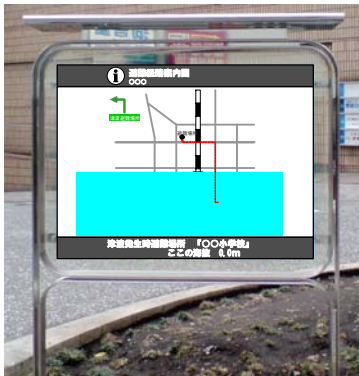
- その場所が津波の到達する危険性があり、発災時には避難が必要であること周知する。
- 注意喚起と海拔表示など。
- 津波の浸水予想エリア全域に配置。



避難を知る - 避難誘導サイン -

1) 避難経路マップ

- 避難場所の位置を示す。
- 駅や交差点に配置。



2) 避難誘導サイン

- 避難場所への誘導を行う。
- 避難経路に配置。



3) 避難路の夜間対策

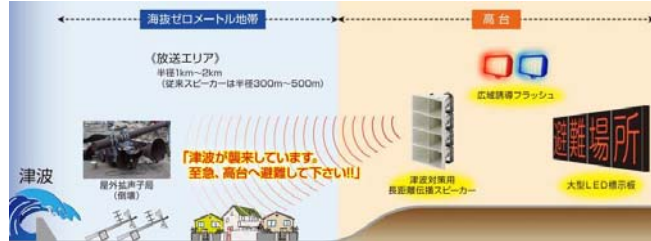
- 夜間の津波襲来に備え、ソーラー自発光式が有効。



状況を知る —リアルタイム災害情報提供—

1)津波発生情報サイン 長距離伝播スピーカー

- 遠方のドライバー・避難者にも音声・文字の双方で発災情報をユニバーサルに伝達。
- 高台避難場所、津波避難ビルなど高所に配置。



2)津波発生情報サイン 緊急地震速報対応型

- 緊急地震速報を受信し表示を自動切替える。またEメールによる画面切替えが可能。
- ドライバー・避難者への緊急時の指示など交通官制にも活用できる。
- 幹線道路などに配置。



平成23年度のまとめ

1)津波避難の重要性及び避難情報の必要性について関連する法律・指針・防災会議等から「ユニバーサルな防災情報の提供」としての提案資料をまとめた

2)特別講習会を企画実施

「津波減災まちづくりにおいて必要な情報とその表現・伝達方法について」と題して京都大学防災研究所 巨大地震災害センター 林春男教授を講師としてお迎えした

3)月刊「区画整理」4月号に「都市空間におけるユニバーサルな防災情報の提供」と題して研究成果の一部を寄稿した

平成24年度の取り組みについて

1)提案資料についての精査とPR

- ・関係省庁へのプレゼン及び指導を乞う
- ・津波対策計画自治体との協働による減災対策のサポート

2)津波防災地域づくりの進捗状況の情報収集

3)津波防災に関する情報提供媒体の調査と連携

お問合せ先

〒112-0013

東京都文京区音羽2-2-2 アベニュー音羽2階206号

財団法人 都市づくりパブリックデザインセンター

TEL 03-6912-0799 FAX 03-6912-0930

E-mail info@udc.or.jp